

# 夢をかたちに…!!

平成22年6月1日 No.17

mitsuhiro hoshino supporters news letter

## 増え続ける民生費！

政権交代の影響は当市の予算に大きな変化を生じさせました。一般会計予算は昨年比9.5%増の276億3411万円。この増額は民生費に関わる予算増によるものです。主たる要因は「こども手当支給事業」で、国、県から17億円、当市はこれまでの児童手当負担分の2億円を加えた総額19億円で、その対象は約9200世帯になります。財源や事業の行方は不透明です。また、「生活保護費支給事業」も平成20年と比較して4億9千万円増で本年度予算は20億円です。日本の景気を考えると、受給者はまだ増えるでしょう。もう一つ、市は本年より「子ども医療費支給事業」の入院・通院の医療費の無料化枠を中学生三年

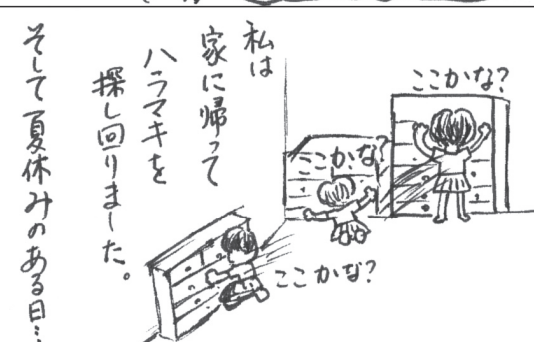
まで拡大し340万円増額としました。これに対し国は、子ども手当制度の全額国庫負担を含めた制度の見直しや、生活保護費の国庫負担率の拡大、子ども医療費等の全国一律の助成・負担などを積極的に行うべきです。地方の負担を軽減するとともに、権限と財源を地方へ委譲することこそ必要です。また、当市も増え続ける民生費を政策的に抑制する努力を怠つてはいけません。



埼玉スタジアム2002 サッカー日本代表応援

no.12 ハラマキの巻

### みっちゃんが行く!



## 平成22年・3月定例議会報告

### ●●● 議会トピックス ●●●

3月定例会は2月23日から3月17日の会期で開かれ、一般会計、特別会計、企業会計などの予算審査を含め26議案、陳情や議員提案議案等14件が審議されました。

一般会計予算は276億3411万5千円で、子ども手当の新設等で前年比9.5%増の増額予算となりました。また、埼玉県下で初めて教育委員の公募による同意人事議案が上程されました。懸案の議会基本条例を策定するための議論の場を議員提案で「議会活性化のための条例策定特別委員会」を設置しました。そして、私が委員長としてその職責を担うこととなりました。

#### ○平成22年度一般会計予算について

\*歳入は景気後退の影響で、市税は前年比1.2%減の133億1437万円で、個人・法人市民税が減収、固定資産税は3.7%増で堅調です。地方交付税は国の動向が不透明な状況で、前年比27.8%減の20億円。減額分の補填を臨時財政対策債20億円見込みました。これにより市債は前年より増え、29億7373万円になります。職員の削減、事業の集中と選択などを実践、行財政改革を遂行してきまし

たが、市民の要望に応えるには、さらに財源の不足を補う必要があります。財政調整基金9億4988万円を取り崩しました。将来の税収状況を考えれば、財政調整基金の扱いは慎重にすべきと指摘をしました。

歳出は「次世代につながる元気な富士見」を目指す編成が行われたと考えます。主な事業は、子ども医療費を拡充、民間保育所2園建設補助、第2放課後児童クラブ整備、妊婦健康診査助成の拡大、鶴瀬駅東西口土地区画整理事業、暫定逆線引き地区の市街化区域再編入のまちづくり、つるせ台公園の整備等。教育部門は、小中学校体育館の耐震補強工事、学校トイレの改修工事、指定管理者制度による中央図書館の運営。このような主要施策に取り組む姿勢と市民生活に直結した事業を評価しました。

最後に、自主財源確保策について、地方方針や当初予算で、その姿が見えませんでした。「出を制して、入りを図る」財政運営の基本を守るよう指摘し、当初予算に賛成致しました。

\*注1 臨時財政対策債とは、地方交付税として交付すべき財源が不足した場合に、地方交付税の交付額を減らして、その穴埋めとして、該当する県市町村自らに地方債を発行させる制度。後年度の地方交付税で措置される。

臨時財政対策債の経年変化5年分

年 度	臨時財政対策債借入額
18	1,040,600
19	944,134
20	884,323
21(見込額)	1,336,021
22(予算額)	2,000,000

(単位:千円)

○市長等の給料の特例に関する条例の改正について

\*市長は自身のマニフェストで退職金ゼロを訴えており、埼玉県市町村総合事務組合との調整がつかず、市長給与を70%削減して、これに対応したい考えでしたが、様々な議論をとおして市長の意を問いましたが、賛成少数で否決されました。

#### ○教育委員会委員の任命について

\*教育委員の公募により10人の方から応募があり、選考の結果、箕輪菊雄氏が選ばれました。議会は前回一致でこれに同意致しました。教育行政の進展に期待したいと思います。

# これからの富士見市を語る 9

今回でこのコーナーも9回目。そこで、これまでを振り返ってみたいと思います。

SWOT分析の方法を取り入れて、富士見市の「強みと弱み」を整理。続いてそれらを「人」「モノ」「金（財政）」「情報」の4つにわけて分析すると、「転入者が多く人口は増加しているが、わがまちをよく知っている人の割合は減っている」

「田園風景は残っているが、空いた土地が有効活用されていない」「駅が3つもあって交通至便だが、駅前がさびしく道路が狭い」など、わが市の特徴が強みとして十分活かされていないことがわかってきました。そのため「暮らしやすさ」が実感できず「個性・特性がない」といったイメージを生んでいるのではないかと、という結論に至ったのです。

では、わが市の特徴をどのように活かしていくか。私たちの提言は、収入の大部分を住民税に頼っているわが市を「市民あつてこそこの富士見市」ととらえ、『東京のベッドタウンではなく、職場も買い物もすべて市内で確保できる職住接近の魅力ある



開発が進み始めた区画整理（鶴瀬駅東口）

まちづくりをする』そのために、『駅前商店街の活性化や企業の誘致、地産地消等をさらに推進する』『介護予防の推進で活力ある高齢者像を作っていく』『医療機関の連携強化と同時に、子育て支援・母親教育の充実に取り組む』などでした。

「個性のないマチから魅力的なマチへ」そのためには、富士見市から埼玉県へ、そして全国へ、あるべき自治体の姿を提案していくことも、私たちに求められているかもしれません。

みつひろに

## 苦言・甘言

|| くれげん・かんげん ||

富士山が綺麗に見える富士見市に引越してから早23年が過ぎました。

当初は知り合いもおらず寂しい日々を送っていましたが、今では沢山の素敵な友達に恵まれ、この地で老後を楽しく暮そうと考えております。

星野みつひろさんの奥様ともひよんな事から友達になり、今では「みつちゃん」と気軽に呼ばせてもらっています。

先日、買物に行く途中で大きな体のみつちゃんに出会った時も、気さくに大きな声を掛けて下さり（散歩中の犬からも）、鶴瀬駅西口都市計画の話を知り易く説明してくれました。

これからも私達市民が生活して行く為の小さな要望にさらに耳を傾け、地域に密着した政治を行っていただき、安心して暮せる素晴らしい富士見市にして下さい。

そしてご自分の健康にも配慮して下さいね。

近所のお姉さまより

# 今ここからだ 日記 必読「ワクチンで防げる病気 子どもたちのために」 text 日鼻 靖

ワクチンで(Vaccine)防げる(Preventable)病気(Diseases)をVPDと呼びます。

子どもたちがかかりやすいVPDには、次のようなものがあります。

ワクチンで防げる主な病気		
● 麻疹(はしか)	● 百日せき	A型肝炎
● おたふくかぜ	● 風しん	B型肝炎
● 結核	● ポリオ	黄熱病
● ジフテリア	● 肺炎球菌感染症	狂犬病
● みずぼうそう	● ヒブ感染症(Hib感染症)	● 子宮頸がん
● 日本脳炎(にほんのうえん)	● ロタウイルス胃腸炎	● インフルエンザ
● 破傷風(はしょうふう)		

● 日本で子どもがワクチンを接種できる病気 参考:感染症情報センターHP

今も毎年多くの子どもたちが、ワクチンで予防できずのVPDに感染して苦しんだり、後遺症を持った

り、死亡したりしています。

先進国である日本の予防接種制度は、いわゆる先進国、中進国のなかでは最低レベルです。

日本では予防接種の必要性和安全性が国民にきちんと伝えられていないために、安全性などワクチンに対する誤解が多く、ワクチンの接種率が欧米などの国に比べて低く、また、無料化しているワクチンの種類が少なく、同時接種や混合ワクチンの普及が進んでいません。

平成13年に麻疹が流行した時は約30万人がかかり、80人くらいの死亡者が出たとも推定され、平成19年に大学生を中心に麻疹が流行して、大きなニュースになり、平成20年よりやっと日本においても麻疹、風しんワクチン(MR)が2回接種となりました。(先

ワクチンが接種できるVPD  
日本と欧米の『定期接種スケジュール比較』

	日本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ		日本	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ
B型肝炎	▲	●	▲	●	●	ポリオ	●	●	●	●	●
Hib感染症	▲	●	●	●	●	麻疹	●	●	●	●	●
小児用肺炎球菌感染	▲	●	●	●	●	風しん	●	●	●	●	●
ジフテリア	●	●	●	●	●	おたふくかぜ	▲	●	●	●	●
百日せき	●	●	●	●	●	みずぼうそう	▲	●	▲	▲	●
破傷風	●	●	●	●	●	子宮頸がん	▲	●	●	●	●
結核	●	×	●	●	▲						

● 定期接種(国の基本的ワクチンプログラムに組み込まれている)  
▲ 任意接種(国の基本的ワクチンスケジュールに組み込まれていない) × 未導入(国内では通常接種できない)  
※EUVA.C.NETを参照して作成

進国ではとくに2回接種が当たり前となっていました

「ヒブワクチン」(平成20年12月)「子宮頸がんワクチン」(平成21年10月)「小児用肺炎球菌ワクチン」(平成22年2月)とやっと日本でも接種できるようになりました。(しかしいづれも任意接種 自己負担)

しかしいくらよいワクチンがあっても、皆が受けてくれないことにはワクチンで防げる病気の被害が続きます。

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチン(日本では未発売)の4種類は、WHOがどんなに貧しい国でも国の定期接種に入れて、無料で接種して国民を守るように指示しているものです。またWHOでは、おたふくかぜとみずぼうそうも先進国では無料化することが望ましいと勧告しています。

子どもの健康と命を守るためにはワクチンの無料接種が大切です。本来であるなら国がやるべき事業ではありますが、各地方自治体においては独自の補助制度を導入しているところが増えてきました。となりの志木市では子宮頸がんワクチンの全額補助、三芳町では大人用肺炎球菌ワクチンの一部補助をきめました。

今回6月より子ども手当が支給されますが、「子ども手当でワクチンを！」接種することでお子さんの将来を守ってください。

ワクチンを接種して、VPD(ワクチンで防げる病気)から子どもたちを守りましょう。

## 編集者のつぶやき★

待ちに待ったゴールデンウィークも終わってしまいましたね。

どこかに行きたいけど、どこに行っても大渋滞と大混雑。それでも毎年出かけてしまうのはどうしてでしょう？

我が家は今年こそは自宅でのんびりと皆でDVD鑑賞かな・・・と思っていましたが、結局出かけてしまい渋滞にはまり余計疲れる休日となりました・・・(・ω・`)

ゆっくり過ごそうと思っているのに、毎年同じ事をしてしまうのはどうしてなのかな・・・。

星野みつひろ

公式ホームページ

www.hoshino-corp.com/3hiro